

更新車両（機動積載車）

1 更新車両の概要（現行車両との比較）

項目	更新車両（艤装後）	現行車両（艤装後数値）
車名	スズキキャリー改	日産クリッパー改
導入年度	—	平成19年度（2007年度）
全長	3,400mm以下	3,390mm
全幅	1,480mm以下	1,470mm
全高	2,000mm以下（幌含む）	1,960mm
車両重量	1,000kg以下	1,250kg
最大積載量	350kg	350kg
トランスミッション	オートマチックトランスミッション	マニュアルトランスミッション
最大搭載人数	2人	3人
最大搭載馬力	37kW/6200rpm	35kW/6000rpm
総排気量	660cc	660cc
参考写真	 <p>(完成イメージ)</p>	  
仕様	軽トラック荷台部に幌を取付け	軽車両を消防専用に艤装

【裏面あり】

2 更新車両の仕様選定理由

(1) 消防活動の困難性への対応

●本町は、道路幅員が狭い等の狭隘地区が多く存在しています。狭隘地区にて火災が発生しポンプ車が火災現場まで進入することが困難な状況の場合は、軽自動車の機動性で迅速なホース延長が可能となる機動積載車は、非常に有効な手段となります。

(2) 車両重量の軽量化 (約1,000kg⇐1,250kg)

●荷台の外装を鉄製から幌とすることで、軽量化を図ります。

災害時に安全で安心した運用を目指します。

●軽量化により車両への負担が軽減することで、故障等のリスクも軽減すると考えられます。運用体制の安定化が期待できます。

(3) 多様な運用・役割を果たす車両

●専用棚 (ホース延長等)、取付装置等を無くすことで、災害事象に応じた資機材の載せ替えが可能となります。また、多様な運用が可能となり、消防力の維持向上が期待できます。

○これまでの運用

- ・主として火災時の狭隘地区における迅速なホースの延長
- ・救急隊3名での活動困難な場合の人員補強の支援出場

○これまでの運用に様々な運用を加え

- ・山中や狭隘地区における傷病者搬送 (幌があることから降雨対応も可能)
- ・救助資機材、水防資機材をはじめ各種資機材の狭隘地区を含めた搬送